

令和7年度 自 己 評 価 表

愛媛県立北条高等学校

学校番号 (19)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）			カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）		
1 学び続ける力：高校での学びを自己の未来の創造につなげ、進路を切り開く力を育む。 2 毎日を楽しむ力：日常の挨拶や節度ある生活習慣の中から、自分を肯定する力を養う。 3 気づく力：様々な経験や実践を通し、多角的な見方・考え方ができる力を養う。 4 問題解決力：向上心をもって課題の発見に取り組み、地域社会を変革させる創造力を育む。 5 起き上がる力：失敗に屈せず、能動的に自己の立ち位置と責任を自覚する力を養う。 6 挑戦する意欲：自身の興味・関心に基づいて探究したり、つまずきに立ち返ったりして高次の学びに発展させようとする力を育む。			1 幅広い講座設定の中から生徒一人一人に主体的に科目を選択させて、少人数でも開講する。介護福祉士を目指す実務者養成研修や各種資格取得等の機会を与えて自己のキャリアデザインの実現に向かって学ぶことができる教育課程を編成する。 2 1年次「産業社会と人間」、2年次「総合学習」、3年次「総合研究」を通して共通性と多様性のバランスを図る。 3 年間の系統的・体系的なキャリア教育を展開し、地域、企業及び他校種と連携した体験的・実践的な学びを推進する。 3 普通教科・専門教科の様々な専門性豊かな教職員が、各特徴を生かして連携しながら、多様な探究的・対話的な学びを実践するとともに、個々のつまずきに即した学び直しの時間を取り入れて基礎学力の習得を目指す。 4 人と関わるトレーニングやグループワーク、校外学習及び講演会など、多様で弾力的な学習方法を積極的に授業に取り入れ、生徒自らが課題を認識し、その解決方法を模索したり、異なる文化や価値観を理解したりして、お互いを認め合える人間関係の構築を目指す。		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
シグ ョラ ンデ ー・ユ ボエ リ	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	B	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」というアンケートに対して、72%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしている。	探究学習の指導法の改善、地域連携の促進などにより、グラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促す。
学 習 指 導	教科指導の充実	授業公開週間等を利用し、年2回以上相互授業参観を行い、授業改善に努める。また、学校訪問研修、教育センター研修等の校外研修に積極的に参加する。 A:4回以上 B:3回 C:2回 D:1回 E:0回	A	校内の授業参観は平均3.9回、授業に関する校外研修への参加は平均1.7回であった。自己の授業改善に努める教員が多数を占めている。	今後も相互授業参観が個々の研さんにつながるという意識を高め、他教科の教員にも積極的な参加を呼び掛ける。また、他の研修機会についても、教職員への連絡を心掛け、積極的な参加を促す。
		生徒による授業評価を年2回、保護者による授業評価を年1回実施し、「分かる授業」を目指す。	A	実施した授業評価では、新しい知識や技術を身に付けられたと感じる生徒が増えている。授業改善について、全ての教員が「改善できた」「改善を目指し工夫している」と回答している。	引き続き、生徒、保護者による授業評価を実施し、教員は授業改善に努める。評価結果の課題を教科で共有し、協調した取組が実現できるよう促す。
	家庭学習の充実	1日3時間以上の家庭学習時間を確保させ、家庭学習の習慣化と質の向上を図る。 A:3時間以上 B:2時間～2時間59分 C:1時間～1時間59分 D:30分～59分 E:29分以下	B	第1回家庭学習時間調査では平均2時間21分、第2回では平均2時間47分であった。	家庭学習時間を増加させるとともに、生徒が自分自身の進路を真剣に考えた学習スタイルを確立し、主体的に学習に取り組むことができるように支援する。
生 徒 指 導	基本的生活習慣の確立	校訓を念頭におき、自分と学校に「 <u>自覚と誇り</u> 」を持ち、 <u>全ての活動を自己の成長につなげるために、基本的生活習慣の定着に努める。また、様々な場面で、身だしなみ指導を行う。</u>	B	遅刻や指導の重なる生徒が見られた。指導が日常の学校生活に結びつかない生徒がいるため、継続した指導が必要である。	規範意識を高めるためにも「 <u>是は是、非は非</u> 」という観点は崩さず、対話を中心とした指導を行っていきたい。
	問題行動未然防止	指導方針を明確にし、組織としての対応を心掛けることにより、問題行動を未然に防止する。また、講演会の実施やパンフレットの配布、事例紹介などにより、注意喚起をする。	A	教職員間で連携を取りながら、指導方針の明確化を図ることができた。また、外部機関と連携し、講習会を開催することができた。	担任・年次と更に連携・協力を図り、組織としての指導体制を強化する。緊急連絡の対応についても考慮する。
		生徒理解のため年間6回以上の個人面談を行う。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	A	日頃から生徒と積極的にコミュニケーションを図りながら、信頼関係を深めることができた。面接指導週間や科目選択等を通して担任や副担任を中心として年間6回以上個人面談を行い、複数の教員が生徒に向き合う姿勢作りができた。	生徒と積極的にコミュニケーションを図り、進路面、生活面において、より協力的な関係構築を図る。年次会等を通して情報を共有し、多方面から支援する体制を作り、生徒一人一人を大切にしながら、集団としての質を高めていく。
進 路 指 導	進学指導の充実	組織的な面接・小論文指導を充実させ、総合型選抜・学校推薦型選抜等における合格率100%を目指す。また、一般入試に対応できる学力を身に付けさせる。 A:90%以上 B:80～89% C:70～79% D:60～69% E:59%以下	A	3年次の進学希望者への面接・小論文指導に関しては、9月初旬の進路実現講座など、組織的に行った。その結果、総合型選抜・学校推薦型選抜において、のべ34人の内33人が合格した。合格率は97.1%であった。	3年次の小論文指導に関しては夏休み前の7月から個人指導を行える体制を目指す。面接指導に関しては進路実現講座ワークシートの有効的な活用方法を確立する。2年次生に対しては、3月に進学セミナーを実施し、より早く受験の準備に取り組めるよう促す。
	就職指導の充実	進路ガイダンス、面接指導等を効果的に連動させ、学校紹介による就職内定率100%を目指す。また、就業後のミスマッチを防ぐため、相談体制を充実させる。 A:100% B:90～99% C:80～89% D:70～79% E:69%以下	A	3年次の就職希望者への指導に関しては、2年次11月から就職セミナー等で指導してきた。結果は就職希望者16名の内16名が内定を決めた。また就業後のミスマッチを防ぐために希望者を対象に職場訪問も行った。	進路ガイダンス、面接指導、就職セミナー、就職模試などを連動させることで、確実に就職内定率100%を達成させる。ミスマッチを防ぐために、担任及び課員との面談、企業研究や応募前職場見学を確実に行わせる。また就職後のケアも連絡を取りながら行う。
人 権 教 育	人権意識の高揚	いじめの未然防止のために、状況把握や情報共有がスムーズにできる協力体制を作る。また、様々な啓発活動を実施し、生徒の人権意識を高める。	C	1～3年次まで悩み調査・いじめに関するアンケートを学期に一度は必ず行い、未然防止、早期解決に努めている。また、ハートフルデーや人権・同和教育のホームルームで人権課題との向き合い方や解決の仕方考えることができた。生徒の情報共有という部分ではやや課題があった。	悩み調査・いじめに関するアンケートを継続して実施するとともに、生徒情報の共有をより密にして、いじめの未然防止に努める。
		生徒の主体的な活動を通して、人権・同和教育ホームルーム活動の内容を充実させる。	A	人権委員会を中心に、担任の先生方と協力して、事前学習から主体的にホームルームに取り組んでいた。活動報告もおおむね生徒が我がこととして考えられているようだった。	今後とも、人権委員会を中心に生徒が主体的に考えるホームルーム活動を実施して、生徒の人権意識高揚に努めたい。また、本年は「会報」などの資料も効果的に使用できたので、新しい教材の発掘もしていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

自己実現の支援	進路意識の醸成	「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」を中心とした学習活動を推進することにより、総合学科での学び満足度100%を目指す。 A:90%以上 B:80～89% C:70～79% D:60～69% E:59%以下	A	「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」「進路実現講座」を予定通り行うことができた。3年次生の進路実現に向けての取組の自己評価において、「大変良かった」「良かった」の合計は92.0%であり、7年連続で90%を超えた。	来年度の「総合学習」「総合研究」について生徒の実態に合った内容に改善できるように、キャリア教育推進委員会等での意見を基に計画を立て、調整を行っている。特にインタビューシブの在り方と総合研究の質の向上について改善を目指す。
	図書館教育	「朝の読書」、調べ学習、読書啓発活動を通して読書習慣の定着を図り、年間貸出冊数600冊以上を目指す。 A:500冊以上 B:400～499冊 C:300～399冊 D:200～299冊 E:199冊以下	C	会議室としての併用などもあり、開館時間や生徒の入室機会が限られ、貸出冊数が減少した。生徒のリクエスト本を積極的に蔵書に加えたり、話題の漫画などを配架したりしたことで、生徒の興味がある本は充実させられている。様々な活動はしたものの、今以上の啓発や工夫が必要である。	次年度より新入生のオリエンテーションがなくなり、貸出冊数も大幅に減少することが想定される。まずは目標冊数の見直しが必要である。ライトノベルや漫画も良いので、生徒が本や図書館に興味を持てるようにする必要がある。朝の読書などを通じて本や図書館に関わる機会を増やしたい。
	部活動の活性化	部活動加入率85%以上で活気ある部活動を実践する。 A:85%以上 B:80～84% C:75～79% D:70～74% E:69%以下	B	部活動加入率は、兼部している生徒を含め目標値を超え96%ではあるが、部活動へ参加ができていない生徒も少なくない。部員数も減少しており、活気ある部活動にするためには更なる努力が必要である。	体験入部や部登録までの期間を有効に活用する。転退部者の追跡調査等を行うなど、他の部活動顧問、担任等が連絡を密にし、活気ある部活動を目指す。
		県大会、四国大会、全国大会の出場10部以上を目指す。 A:10部以上 B:7～9部 C:5～6部 D:3～4部 E:2部以下	B	運動部ではなぎなた部、レスリング部、アーチェリー部が全国大会へ出場することができた。合同チームが認められたことにより、これまでとは変わった形の活動、運営が生じた。文化部においては、本校「魅Can部」の吹奏楽部を中心に地域と連携し様々な活動を積極的に行うことができた。	次年度へ向けて、なぎなた部が全国選抜大会の出場権を獲得するなど明るい話題はある。部活動編成についても検討し、今までとは異なる部活動の在り方について再考しながら生徒たちのニーズに合った部活動の発展を目指したい。
	資格取得の推進	資格取得へ積極的に挑戦する意欲を持たせ、より高い合格率を目指す。また、上級資格への挑戦意欲を高める指導を行う。	C	()内の数字は取得人数である。全商ビジネス計算実務検定電卓1級(1)、全商ビジネス計算実務検定電卓1級(普通計算)(18)、全国高等学校家庭科食物調理技術検定1級(1)、全国高等学校家庭科保育技術検定1級(造形表現技術)(1)、全国高等学校家庭科保育技術検定1級(言語表現技術)(1)、全国高等学校家庭科保育技術検定1級(家庭看護技術)(3)	進路実現につながる資格を取得する生徒を多く育てるとともに、上級資格への挑戦意欲を高め、1級の資格取得を目指す指導を継続して行う。
	教育支援の充実	アンケートや教育相談等を通じて、生徒が抱えている問題や悩みの早期発見に努める。また、生徒の心に寄り添う教育支援を行う。	A	アンケート結果や気になる生徒との面談についての情報共有を図った。スクールカウンセラーの所には、自分の思いを聞いてもらうために定期的に来る生徒がいて、解決の糸口を探すためのサポートができた。	学校生活を充実させるために、継続した支援を続けなければならない。そのためには、いろいろな場面での対話やコミュニケーションを大切に、個々の生徒それぞれに向き合い、その思いを受け止め共有できる環境づくりを行う必要がある。また教職員研修も開催したい。
開かれた学校づくり	保護者との連携強化	PTA会員相互の親睦や信頼関係作りを通して、無理なく参加しやすい運営に努める。PTA総会については、校内での協力体制を整え、内容を充実させる。	B	PTA総会については、担任によるホームルーム活動や授業に関する展示など校内での協力を得ることができた。文化祭でのキッチンカー導入や生徒との座談会形式的PTA研修会など、PTA役員の方々の協力のもとで新たな取組が好評だった。	今後も、活動内容を検討・精選し、会員相互の協力・連携を充実させるとともに、校内での協力体制を整える。
	国際教育活動の充実	ALTとのチームティーチングを充実させ、コミュニケーション力と国際理解の向上に努める。国際理解教育関連の指導の充実を図るため、講習や研修会に参加する。	A	チームティーチングは全学年合わせて1日平均3時間実施した。教科書の内容に加えて、外国の文化や料理などについても取り扱い、国際理解を深めた。	ALTとのチームティーチングにおいては事前の打ち合わせを入念に行い、授業の内容が充実したのものになるように努めていく必要がある。授業時間外に生徒とALTが関われるように、活動を工夫する。
	教育活動情報の公開	教育活動やその成果を積極的に開示するため、ホームページにおいて最新の情報を更新し提供する。	A	ホームページに学校行事だけでなく教育活動全般について掲載した。	学校アピールにつながるような内容をホームページへ積極的にアップし、本校に興味・関心を持ってもらえる機会を増やす。
	地域との連携促進	地域行事やボランティア活動に主体的に参加し、積極的に地域との交流を図る。年間に生徒1人が1回以上のボランティア活動を行う。	B	高大連携として、生徒会を中心に互いの文化祭で出したり、愛媛マラソンには、吹奏楽部、ボランティア生徒、教職員含めて約50名が参加し、協力することができた。	愛媛マラソンへの協力は学校としての取組となりつつあり、次年度も引き続きいきたい。吹奏楽部、なぎなた部をはじめ地域行事にも積極的に関われるよう連携を取ってきたい。
	大学等との連携促進	大学等の授業・施設利用体験、学生と生徒の交流等を各年次1回以上行う。事業所訪問、インターンシップにおいて30か所以上の事業所との連携を行う。 A:30か所以上 B:25～29か所 C:20～24か所 D:10～19か所 E:9か所以下	A	1年次「地域に生きる人々に学ぶ」5講座、「企業・大学等訪問」6か所、2・3年次「出張授業」11講座を行うことができ進路意識の醸成につながった。インタビューシブ（共育型インターンシップ）は27事業所で行うことができた。	来年度は「出張授業」「企業・大学等訪問」「インタービューシブ」等、上級学校や事業所との連携を予定している。
保健・安全管理	安心・安全な教育環境の充実	生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通事故・違反ゼロを目指す。また、ヘルメット着用の徹底を図る。	B	今年度は自転車事故は2件、ヘルメットの未着用の指導は、5名行った。自分の命を守る指導を今後も継続していく必要性を感じた。また、登校指導においては、5分前指導を受ける生徒や度々な遅刻により指導を受ける生徒がいる。生徒の状況に応じて個々の対応をしているが、改善されない場合もあるため、根気強い指導が必要である。	自転車の乗車方法やJRの利用マナーなど、適するタイミングで声がけしていきたい。また、登下校については、時間を厳守する習慣作りを行うとともに、不審者に対する注意喚起を徹底し、安全な登下校をさせるよう、適する場面で生徒に注意喚起を行ってきたい。
		安全点検を年間5回実施し、安心・安全で清潔な施設や設備の整備に努める。また、防災避難訓練については予告なし訓練も含めて年間3回以上実施する。	A	安全点検を5回実施できた。校内は工事中で環境は最適ではなかったが、安心・安全に施設や設備の管理ができるよう努めた。防災避難訓練は予告なし訓練も実施し4回実施できた。	施設設備が古く、すぐに修理できないところもあるが、事務課と連携して、改善していきたい。特にトイレの改修に期待したい。地域と連携した防災避難訓練などが今後できればよい。
		心身の健康の保持増進を図り、健康で活力ある生徒を育てるため、保健指導・健康相談の充実に努める。また、感染症予防、適切な環境衛生の維持管理に努める。	A	今年度よりスクールカウンセラーが配置されたこと、保健室の隣を教育相談室とすることで、相談しやすい環境が整ってきた。また、インフルエンザの流行があり、換気や咳エチケットなど感染症予防対策を引き続き、行っていくたい。	スクールカウンセラーの利用において、生徒への積極的な働きかけを行い、保護者や教員からの利用も促進できるよう、来年度に向けて、有効的な活用方法を考えていきたい。
改善業務	職場の環境改善	業務の効率化や各種制度の活用を通して、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	定時退勤日の呼びかけ等を行い、ライフ・ワーク・バランスの実現を促進した。また、トラブルなどの情報をいち早く共有し、解決に向けた相談体制を構築することに努めた。	教職員の身体的、精神的な負担を少しでも軽減できるよう、今後も継続して、休暇取得の促進や問題の共有化を図っていききたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。